

■行動隊が川内村の帰還事業を支援します

福島原発行動隊が川内村住民の帰還事業を支援することになりました。

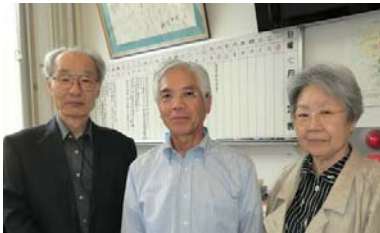
川内村は昨年原発事故以降、村役場をはじめ住民の大半が避難していましたが、今年1月に遠藤雄幸村長が帰村宣言をし、4月1日から役場や小中学校が川内村での活動を再開しました。これまでに400名以上の村民が帰還したとされています。

福島原発行動隊は、自治体の帰還事業を支援する一環として、帰還に伴う住居内の清掃・除染・モニタリングのために無償ボランティア作業員（行動隊員）を派遣する用意があることを川内村当局に申し出て、話し合いを進めてきました。その結果、近いうちに川内村と行動隊との間で覚書を交わした上で具体的な作業に入る見通しがつかしました。

詳細については次回の院内集会で塩谷副理事長が報告する予定です。

■川内村と楡葉町の役場を訪問しました

6月20日から21日にかけて、福島原発行動隊の塩谷亘弘・佐々木和子両副理事長以下5名が川内村と楡葉町それぞれの役場を訪れ、役場職員と面談しました。



左から塩谷副理事長、猪狩貢副村長、佐々木副理事長

川内村役場は今年4月に避難先の郡山市から

川内村に戻りましたが、楡葉町は町の大半が今なお警戒区域に指定されたままで、町役場はいわき明星大学（いわき市美里町）の大学会館に避難しています。

今回の訪問は、多数の避難住民を抱える市町村において、住民の帰還を支援する活動に行動隊が積極的に寄与する可能性を探る目的で行われました（SVCF通信第19号参照）。



●ガンマカメラ

川内村役場では、日立コンシューマエレクトロニクス株式会社が開発したガンマカメラの説明会とプレゼンテーションに参加することができました。

このガンマカメラは、測定したガンマ線の分布データとビデオ映像を合成し、現場の放射線量の分布状況を映像で色分けして表示します。これにより、現場で放射線量が高いのはどこなのかを一目で確認すること

ができます。また放射線の種類（セシウム134、セシウム137、ヨウ素131）の識別もすることができます。

ただ精度向上のために鉛の遮蔽板で覆われていることから重量が40kgと重く、また推定価格も数千円と非常に高価です。しかし、目に見えない放射線を可視化することの効果は非常に大きく、今後、軽量化と低価格化が実現すれば、ガンマカメラはホットスポットの可視化ツールとして、また除染効果の検証ツールとして大いに活躍することと期待されます。

なお、地場産業振興の一環として、このガンマカメラは今年末に川内村に移転する予定の企業が日立の支援を受けて製作にあたるということです。

今年末に川内村に移転する予定の企業が日立の支援を受けて製作にあたるということです。

■塩谷副理事長が講演しました

6月18日、東京板橋区の市民ネットワークからの講師派遣の依頼を受けて、塩谷亘弘副理事長が「放射線講座」において講義を行いました。

同市民ネットワークは、放射線汚染が広まる中で被曝を最小限に食い止める生活術を学ぼうと、これまでも様々な活動を通じて、放射線の人体に対する影響等について学んできましたが、この機に基礎的な勉強をし直そうと今回の「放射線講座」を企画しました。

福島原発行動隊への今回の講師派遣要請は、行動隊が原発推進か脱原発かを問うことなく福島第一原発の事故収束を考える真摯な姿勢と、高度の放射線知識およびモニタリング能力が評価されたものです。

同市民ネットワークは生活区での空間放射線量や食品被曝量の自主測定活動の展開も目指しており、行動隊に対して空間線量のモニタリング講習への協力要請も行っています。福島原発行動隊は放射線からの防御



に対する正しい知識の普及という観点からこの問題についても講師派遣を決めています。

■ウェブ・サイトの英語化を進めています

今後福島原発行動隊の活動を海外に積極的に紹介していくために、現在ウェブページの英語化の作業を進めています。当面は「福島原発行動隊の基本的立場について」などの基本文書を英訳公開することとし、海外勤務の経験が豊富な元技術者の皆さんが精力的に翻訳を行っています。



■山田理事長が米国各地で講演します

前号でお伝えのように、山田理事長が7月29日にアメリカのカリフォルニア州で開催される「Fukushima Forum」で講演します。フォーラム主催者とのその後の話し合いの結果、3週間にわたって全米各地での講演や報道機関とのインタビュー、テレビ出演などを行うことが決まりました。詳細は現在準備中ですが、当面、カリフォルニア州の4ヶ所以上で講演するほか、上院議員など政治家との会談、シカゴやワシントンD.C.での講演などが予定されています。

7月28日サンフランシスコ、8月4日シカゴ、7日ワシントンD.C.、16日ロサンゼルスと歴訪した後、20日にロサンゼルス発で帰国という長期の出張になります。

現地では会合などの準備にあたっているのはDr. Carol Wolman（精神科医・緑の党）のグループです。このグループはカリフォルニア州を拠点として核兵器や廃棄核兵器の危険性を訴えるなど様々な活動をしています。全米の同様な活動グループと連携をとりながら、福島原発行動隊の訴えを広める準備をしています。

今回の訪米では、福島第一原子力発電所の事故収束をナショナル・プロジェクトにする必要性、国際監視団を用意して透明性を確保すること、現場のプロジェクトマネジメントを確立する必要性などを訴える予定です。なお、山田理事長には行動隊員の岡本達思氏が同行します。

■『高齢社会白書』に掲載されました

政府が国会に提出した年次報告書「平成24年版高齢社会白書」に福島原発行動隊が取り上げられました。その内容は以下の通りです。

公益社団法人「福島原発行動隊」は、福島第一原発事故の収束作業に当たる若い世代の放射線被曝を軽減するため、退役技術者・技能者を中心とする高齢者が、長年培った経験と能力を活用し、現場におもむいて行動することを目的として、平成23（2011）年4月発足した。

同年7月には、福島第一原発内の現場視察を行い、また、放射線測定や除染等業務に関する研修にも参加して、現地での活動に備えているが、いまだ現地での活動をスタートさせる環境が整っておらず、現在は学習会やシンポジウムの開催、低減活動、放射線量の測定、簡単な除染作業などを行っている。

平成24（2012）年5月現在で行動隊員は679人を数える。福島事故現場では、10年以上にわたって安定的に動かす設備を建設し、これを保守しながら運転するという作業となるため、息の長い取組が必要であるが、若者の被曝を最小限にとどめるために、現地での一刻も早い活動の開始を待ち望んでいる。

■6月1日～6月29日の主な活動内容

活動内容	月/日	場所
SVCF連絡会	6月1日	SVCF事務所（東京・北区）
原発ウォッチャー会議	6月6日	SVCF事務所（東京・北区）
第17回院内集会	6月7日	参議院議員会館（東京・千代田区）
谷岡郁子参議院議員と会談	6月7日	谷岡郁子議員事務所（東京・千代田区）
SVCF連絡会	6月8日	SVCF事務所（東京・北区）
行政・法令等ウォッチャー会議	6月8日	SVCF事務所（東京・北区）
WEB英語化チーム:キックオフ会議	6月12日	SVCF事務所（東京・北区）
荒井聡・谷岡郁子参議院議員と面談	6月13日	衆議院議員会館（東京・千代田区）
財政拡大会議	6月14日	SVCF事務所（東京・北区）
院内集会準備会	6月14日	SVCF事務所（東京・北区）
SVCF連絡会	6月15日	SVCF事務所（東京・北区）
放射線講座への講師派遣（塩谷副理事長）	6月18日	板橋ネットワーク（東京・板橋区）
川内村役場訪問（猪狩副村長と会談）	6月20日	川内村役場（福島・双葉郡）
檜葉町役場訪問	6月21日	檜葉町役場（福島・いわき市）
SVCF連絡会	6月22日	SVCF事務所（東京・北区）
SVCF勉強会（プロジェクトマネジメント）	6月22日	SVCF事務所（東京・北区）
WEBチーム会議	6月25日	SVCF事務所（東京・北区）
SVCF理事会	6月25日	SVCF事務所（東京・北区）
SVCF社員総会	6月25日	SVCF事務所（東京・北区）
行政・法令等ウォッチャー	6月28日	SVCF事務所（東京・北区）
SVCF連絡会	6月29日	SVCF事務所（東京・北区）